

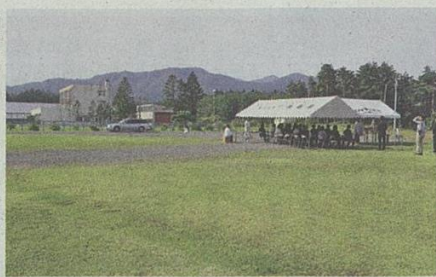
東北産業(五戸)と光星学院(八戸)連携

野辺地に介護施設開設

来年4月 人材育成も目指す

野辺地町野辺に2017年春、教育機関が運営に関わる認知症対応グループホームがオープンする。設置者は東北産業(五戸町、上山社長)で、タッグを組むのは学校法人光星学院(八戸市、法官新一理事長)。地域のニーズに即した福祉を提供するための研究を進めるほか、学生を派遣するなどして介護に携わる人材不足の解消も目指す。(山内淳一)

施設は町の第6期介護保険計画に基づいて建設される。5日には現地で地鎮祭があり、関係者が工事の無



福祉に関する人材を育成する場にもなるグループホームの建設予定地。5日、野辺地町野辺野

事を祈った。今月中旬に着工し、来年4月の開設を目指すとしている。

町内に同学院が運営する八戸学院野辺地西高がある縁で、八学大地域連携研究センターと連携協定を結んでいる同社が、町に企画、提案した。

場所は町総合運動公園近くであり、13年4月に閉園した八戸短大附属幼稚園びわの跡地で、敷地面積3302平方メートル。施設は木造平屋建ての延べ床面積866平方メートルで、27の個室を設ける。従業員21人は町内から雇用する。

同学院は「生きた現場」としてセンターが取り組む

研究に役立てるほか、福祉を学ぶ学生をインターンとして派遣することを想定。法官理事長は「町に貢献すると同時に、介護や福祉の人材育成の基盤にもしたい」と狙いを語る。同社は建築業のほか、グ

ループ全体で青森県南に27の高齢者福祉施設を展開。特に介護関連施設の過疎地域に積極的に進出している。上山社長は「行政と学校との連携は意義あること。教育実践の場にもなっ